



証券コード 7561 東証プライム



2023年3月期 第2四半期 決算説明会資料

株式会社ハークスレイ



- 1. 2023年3月期 第2四半期 決算概要**
- 2. TOPICS**
- 3. 2023年3月期 業績予想について**

2023年3月期 第2四半期 決算概要



店舗リース&ソリューション事業・店舗不動産事業 ともに増収

	2022年3月期 2Q実績	2023年3月期 2Q実績	前年同期比	前年差	2023年3月期 通期予想
売上高	13,931	15,999	114.8%	2,068	37,000
売上総利益	5,054	5,607	110.9%	553	
営業利益	321	723	224.8%	401	1,900
経常利益	546	866	158.7%	320	2,100
親会社株主に帰属 する四半期純利益	347	609	175.3%	262	1,600

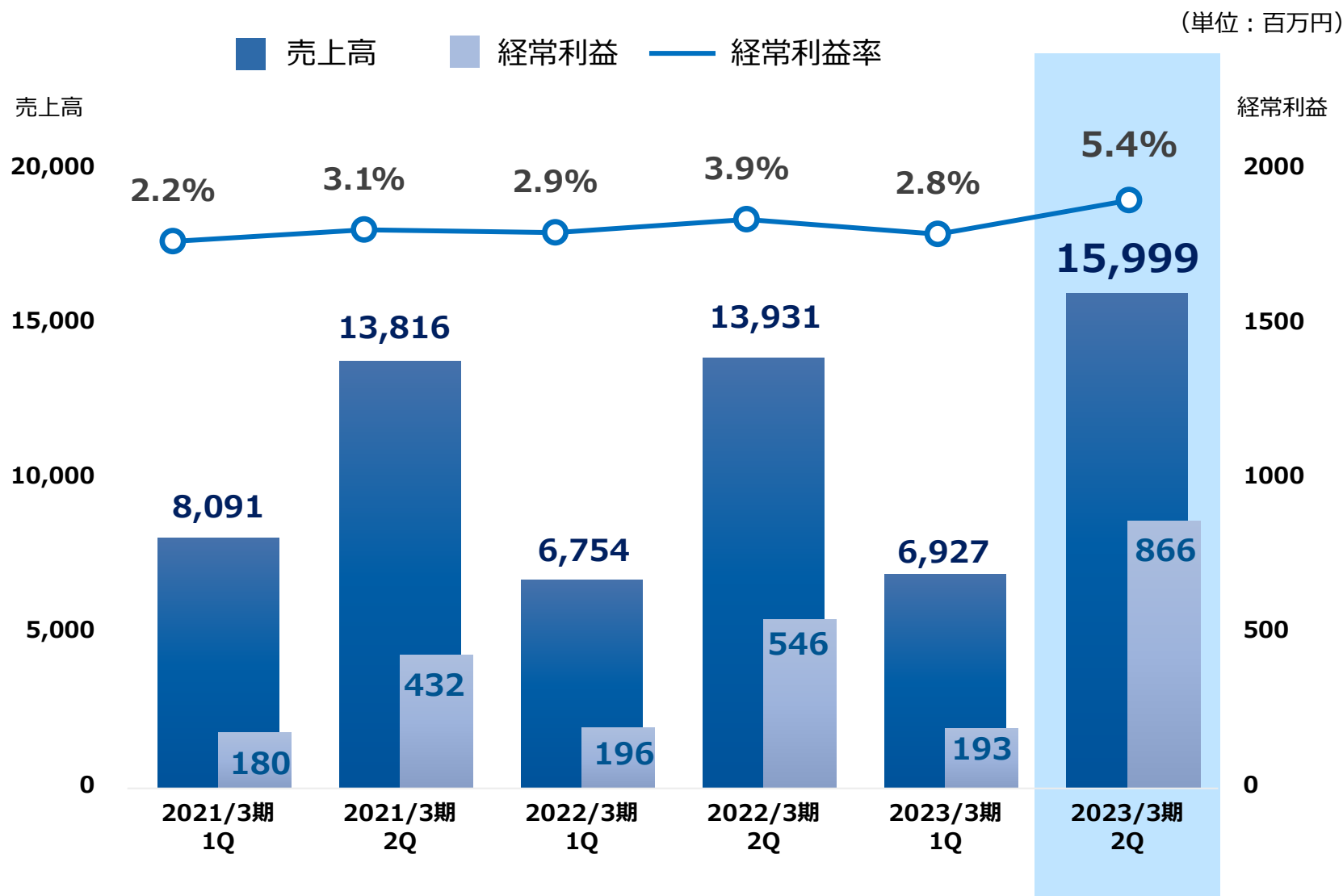
2023年3月期 第2四半期 セグメント別ハイライト



(単位：百万円)

	売上高			営業利益		
	2023年3月期 2Q実績	前年同期比	前年差	2023年3月期 2Q実績	前年同期比	前年差
連結	15,999	114.8%	2,067	723	224.8%	401
持ち帰り弁当事業	7,921	101.3%	103	93	17.3%	▲445
店舗リース& ソリューション事業	3,893	105.8%	212	363	80.8%	▲86
店舗不動産事業	2,393	493.4%	1,908	557	354.8%	400
物流食品加工事業	2,411	96.5%	▲88	22	41.5%	▲31
仕出料理事業	187	59.6%	▲127	▲100	—	▲66
その他の事業	323	192.3%	155	50	—	70
消去及び全社	▲1,131	—	▲95	▲263	—	558

経常利益率は第2四半期において5.4%まで回復



原油価格やエネルギーコスト等の高騰により、商品価格の改定となったものの、各種キャンペーンや商品のリニューアルの好評により横ばいを維持。

(単位：百万円)	2022/3期 2Q	2023/3期 2Q	前年同期比
	金額	金額	
売上高	7,818	7,921	101.3%
セグメント利益 (利益率)	538 (6.8%)	93 (1.1%)	17.3%

- 7月~9月にかけて、看板商品の「のり弁当」のシリーズとして、創業46年のこだわりを感じさせる「のりスタミナ弁当」を発売。さらにカレーのリニューアル、季節の人気商品「松茸シリーズ」の発売等、積極的な商品展開が好評
- TVアニメ「東京リベンジャーズ」とコラボした「東京のりベンジャーズキャンペーン」を実施
- 昨今の原油価格やエネルギーコスト等の高騰を受けて、商品価格を改定
- 商品価格改定の結果、前年同期比の水準を維持

「店舗リース&ソリューション事業」 「店舗不動産事業」、ともに増収

特に、開発・リーシングで価値を高めた店舗不動産の売却が利益に貢献

【店舗リース】

取引店舗数は4~9月で6%増、805店に。出店予定店舗の売上AI予測などマーケティング強化。

【人材ソリューション】

店舗運営に必要な人材の不足感が高まる社会情勢のもと、店舗物件+人材の両輪で出店サポート。

【ITソリューション】

(株)アニーの製菓店向けネット販売支援システム「ニナカート」が好調で導入店が前年比2割増。

【店舗不動産】

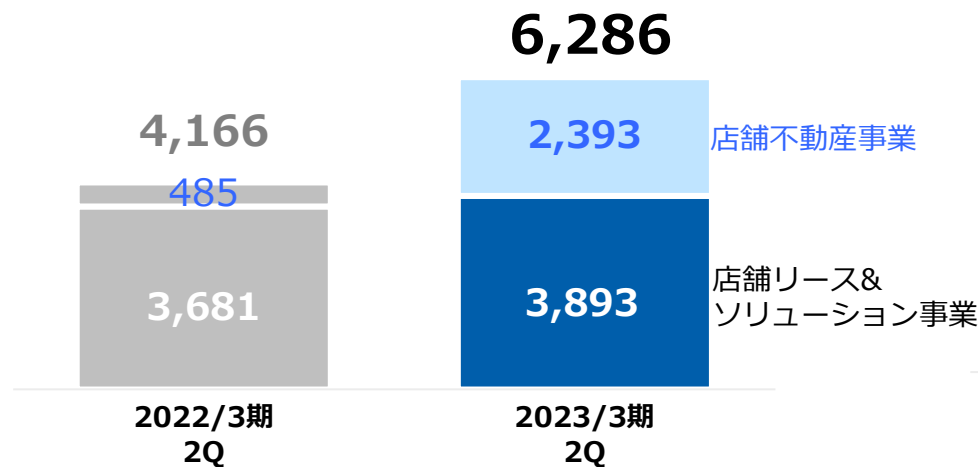
開発・リーシングで収益価値を高めた店舗不動産2物件を計17億円で9月に売却。利益に貢献。

売上高

(単位：百万円)

■ 店舗リース&ソリューション事業 ■ 店舗不動産事業

↑ **50.8%増**

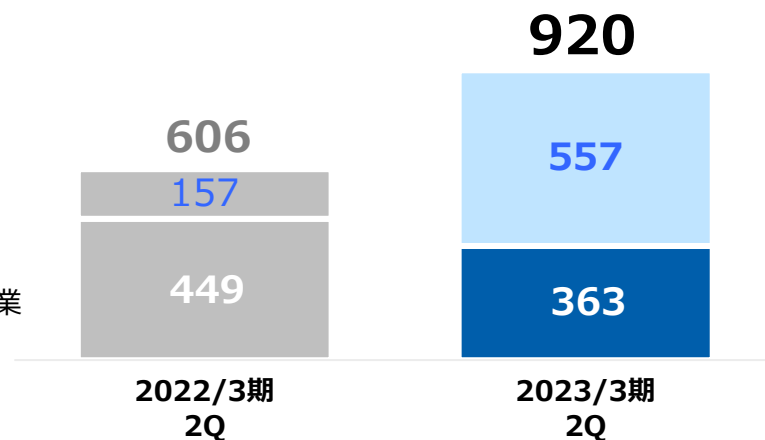


セグメント利益

(単位：百万円)

■ 店舗リース&ソリューション事業 ■ 店舗不動産事業

↑ **51.8%増**



物流食品加工事業は様々な食品の マーケットにおいて多くのユーザー、ベンダーから 高い評価を得て順調に業績を拡大

物流食品 加工事業

売上高 2,411百万円 セグメント利益 22百万円

カミッサリー製品需要の高まりに伴い、工場稼働率が大きく上昇。OEMとして多種フレーバーで要望に応えることで高品質を実現し、顧客満足度の向上に寄与。

仕出料理事業

売上高 187百万円 セグメント損失 △100百万円

物価高に円安が重なり原材料高騰による原価上昇の影響などもあり、厳しい状況が続いている一方、サッカーを中心とした大型スポーツ各種イベントの大型案件を受注。

その他事業

売上高 323百万円 セグメント利益 50百万円

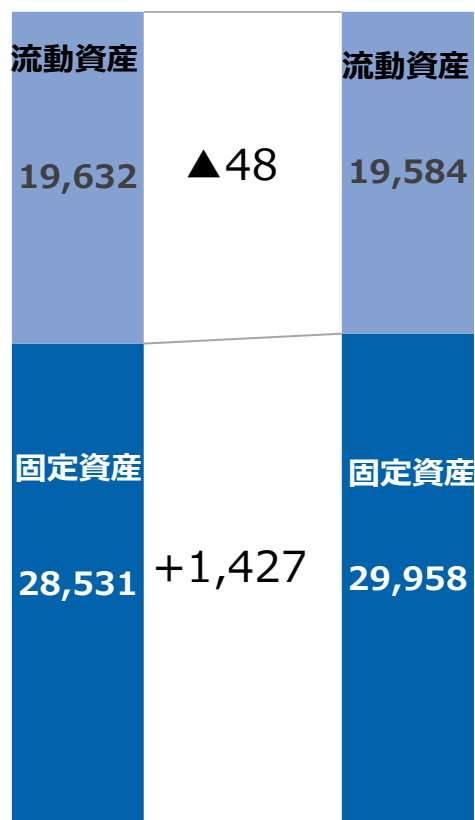
夏イベント未開催の影響で低調な推移も、9月以降、パーティーや催事が増加傾向に転じているため需要も拡大していくと予想。

※フレッシュベーカーリー事業については、2021年2月に事業譲渡しております。

資産の部

(単位：百万円)

- 店舗不動産事業における不動産物件の取得



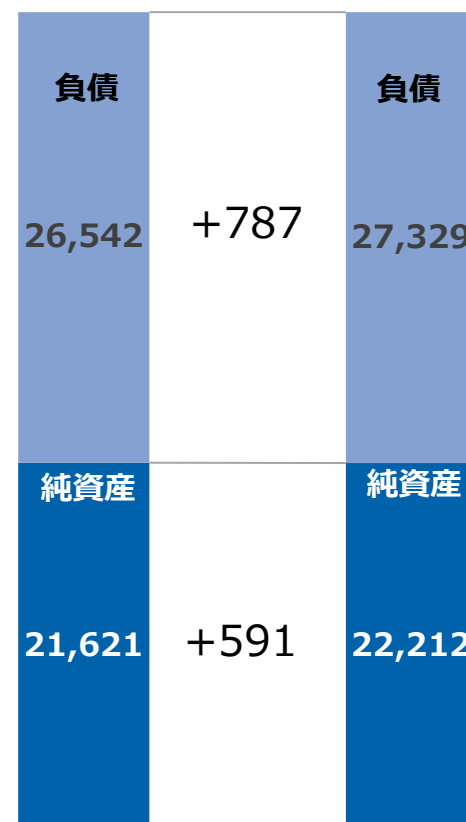
2022年3月末

2022年9月末

負債・資本の部

(単位：百万円)

- 負債：主に借入金が増加
- 純資産：主に親会社株主に帰属する四半期純利益の計上



2022年3月末

2022年9月末

TOPICS



稲葉ピーナツ(株)及び(株)アイファクトリーの発行済株式の全部を取得し、稲葉ピーナツの完全子会社である(株)谷貝食品を含め、3社がハークスレイグループに加わりました。



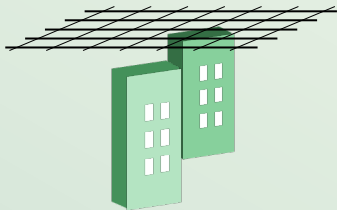
【株式取得の理由】

- 「中期経営計画 Resilient2021」において示している、ビジョン「自己変革型企業群」構築の一環となるものです。不透明さを増す未来において新しい価値創造を続けていくために、環境適応能力と成長性を兼ね備えた事業連合体を目指しており、「グループ拡大による多事業化」、「環境・市場対応力」、「経営人材の多様化」を通してその実現に努めております。
- 株式取得を予定している稲葉ピーナツ及びアイファクトリーは、落花生・ナッツを中心に、丁寧な商品作り、新鮮さ、おいしさ、安心をモットーとした商品作りを実践しており、当社MISSION及び中期経営計画と合致しております。そのため、本株式取得は当社企業価値の向上に資するものと判断しております。

「中期経営計画 Resilient2021」ビジョン 自己変革型企业群

- ・コロナウイルス
- ・脱炭素社会や持続可能な社会への対応等

企業を取り巻く
「環境変化の網」



従前のやり方では
突破可能性が低い

積極的
に変化

グループ拡大による
多事業化
グループ拡大・事業
間連携による新規事
業創出でグループの
多様性を高める



自己変革型企业群

積極的に自己変革することで不
透明な未来に速やかに対応し、
成長を持続できる事業群

環境・市場対応力

自社の技術と社外の技術や知
見を組み合わせ、新環境新
市場にいち早く対応し困難を
突破する力

経営人材の多様化
グループ拡大や人
材育成で事業の深
化力と探索力を兼
ね備えた経営人材
の発掘と育成

不透明さを増す未来において新しい価値創造を続けていくために、ハークスレイグループは環境適応能力と成長性を兼ね備えた事業連合体「自己変革型企业群」を目指します。

人気アニメ「東京リベンジャーズ」と コラボキャンペーン開催



©和久井健・講談社/アニメ「東京リベンジャーズ」製作委員会

2022年7月21日から「ほっかほっか亭」と、TVアニメ「東京リベンジャーズ」のコラボキャンペーン『東京のリベンジャーズキャンペーン』を実施。

対象商品を購入された方にオリジナルクリアファイルのプレゼントや、アクリルスタンドを販売。

キャンペーン対象商品として、新世代ののり弁当をコンセプトに、全く新しい「のりスタミナ弁当」を開発。

創業46年のこだわりを感じさせる逸品に仕上げました。

元祖のり弁当のほっかほっか亭にしか名乗れない「東京のリベンジャーズキャンペーン」というタイトルを冠し、おかげさまで非常に多くのお客さまにご参加いただき、好評をいただきました。

災害協定の締結



地震や豪雨等の被災地にあたたかい食事を提供してきた経験を活かして、出店地域における各自治体と連携し、災害時の物資供給に関する協定締結を進めております。

この協定は、災害が発生、または発生する恐れがあり、物資を調達する必要があると認められる場合において、自治体から、弁当類を中心とした食料品等の供給を要請があった場合、可能な限り協力することを定めるものです。災害時にも地域に寄り添い、みなさまに一層の安心をお届けすることを目的に、出店地域における各自治体と連携し、ほっかほっか亭のチェーン特性を活かしてお役に立てる仕組みを構築いたします。

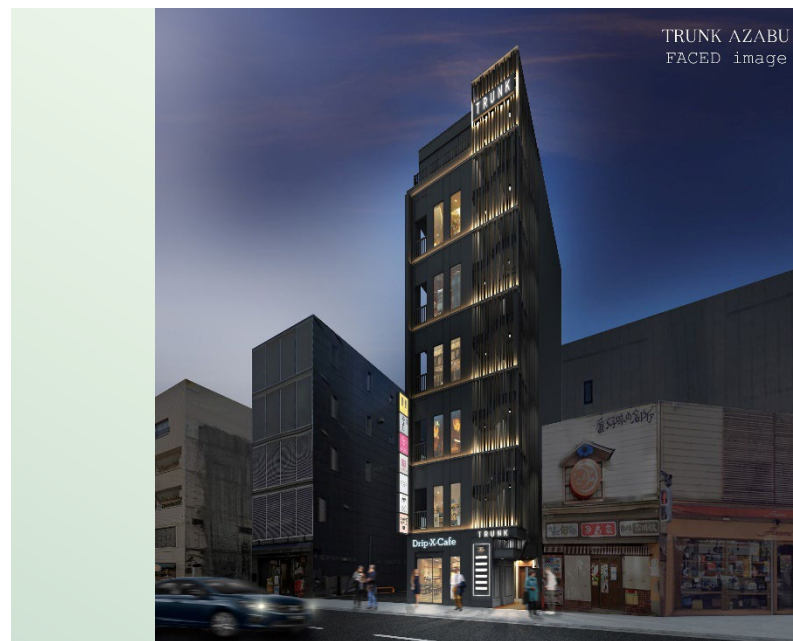
関東・東海・近畿・中部 ロードサイドに32店舗出店



※写真はイメージです。

アフターコロナを見据えた出店戦略の1つとして、ロードサイド物件での出店強化を図り、関東・東海・近畿・中部のロードサイドに32店舗の出店をおこないました。出店した物件はリーシングの汎用性を考慮し、ロードサイド物件の中でもニーズの高い、建物面積50坪前後のものを中心に取得しています。

自社開発「TRUNK麻布十番」 竣工稼働、ファンド組入れ



東京都港区で老舗と流行の店が共存する麻布十番の地に、2年がかりで自社開発した地上7階建の商業ビル「TRUNK麻布十番」が竣工・稼働いたしました。立地に適した今勢いのあるテナントを発掘・誘致する自社リーシングの強みを活かし、カフェ・理美容・バー・リユース等にて満室稼働を実現し、グループ組成の不動産私募ファンドに組入れました。

大規模スポーツイベントにてお弁当の提供



6月に国立競技場において行われた麒麟チャレンジカップ日本代表VSブラジル代表戦でのパーティー対応、お弁当の提供を行いました。

7月にはラグビー日本代表VSフランス代表戦や、サッカーJリーグの試合など、大型イベントでお弁当の提供を行いました。コロナ禍における対応とSDGsの観点から、パーティー対応に限らず、お弁当提供も拡大しております。

2023年3月期 業績予想について



コロナ克服で景気回復期待もウクライナ情勢含む 地政学リスク等により先行きは不透明 上記環境を踏まえ業績予想を計画

	2022年3月期 実績		2023年3月期 予想		前期比
	金額	売上比率	金額	売上比率	
売上高	31,732	—	37,000	—	116.6%
営業利益	1,103	3.5%	1,900	5.1%	172.2%
経常利益	1,379	4.3%	2,100	5.7%	152.2%
親会社株主に帰属 する当期純利益	978	3.5%	1,600	4.3%	163.5%

株式会社ハークスレイ 経営企画室

**IRに関する
お問い合わせ先**

電 話 : 06-6376-8088 (代表)

e-mail : ir@hurxley.co.jp

将来見通し等に関する注意事項

本資料につきましては投資家の皆様への情報提供のみを目的としたものであり、売買の勧誘を目的としたものではありません。
本資料における、将来予想に関する記述につきましては、目標や予測に基づいており、確約や保証を与えるものではありません。
また、将来における当社の業績が、現在の当社の将来予想と異なる結果になることがある点を認識された上で、ご利用ください。
また、業界等に関する記述につきましても、信頼できると思われる各種データに基づいて作成していますが、当社はその正確性、完全性を保証するものではありません。
本資料は、投資家の皆様がいかなる目的にご利用される場合においても、ご自身のご判断と責任においてご利用されることを前提にご提示させていただくものであり、当社はいかなる場合においてもその責任を負いません。